

●7月20日(木)

9時00分～12時00分 現地大学生メンターとの「ディスカッションベース・プログラム②」

13時45分～16時30分 ハーバード大学訪問(学生による説明&質疑とキャンパスツアー)

8時50分、明るい日差しと朝の気持ちよい空気を感じ、皆元気な顔で指定場所(「Porter 駅」)に集合しました。研修初日から天候に恵まれ、日中は30度近く上がる日(時間)もありますが、湿気の少ない東海岸気候にて朝晩、そして日中でも日陰に入れば快適なぐらいです。多くの生徒が余裕をもって到着し、スーパーを物色してみたり、Dunkin' Donuts(マサチューセッツ州発祥のドーナツ屋)や、近くのカフェで購入した飲料片手にアクティビティ前の時間をリラックスして過ごす様子も見られます。

朝9時、本日午前の活動として、学生メンターとの英語によるディスカッションベース・プログラム(GEM: Global Empowerment Mindset)の2回目を実施されました。3日目の報告記載のとおり、「Design Thinking、Visual Thinking」という概念、思考方法を実践的に理解し、「探究学習」深耕への展開、活用ができることを目的に行う当セッション、本日は実際の複数の写真やイラストに対して、「different interpretations & perspective(多様な解釈と視点、物のとらえ方)」があること、それらが自己をとりまく世界(社会、環境、事象や問題など含め広義に)の認識と理解に大いに役立つ、ということを導入としてディスカッションがスタート。この思考法の具体的な狙いは「critical thinking」「communication skills」「careful observation」「asking questions」、主にこの4つのスキルを高める、あるいはうまく活用することで、研究、ビジネス(マーケティング等)、そして教育(中高生の探究学習支援、大学生の学習や研究深耕)などの分野において新しい学び方、課題や対象への新たなアプローチ法を獲得することにあります。実際に、ハーバード・メディカルスクールでは「patient (person) centered care」にて活用。患者の意思や価値観を尊重するなかで、臨床における判断や決定へ導く、との例も挙げられていました。

さて、モネの『ラ・ジャポネーズ』を最初のサンプルとして自由な発言と意見交換がスタート、冒頭はVisual Thinking自体の理解と本セッションですべきこと、そして本セッションゴールの理解まで探り探りの様子でしたが、そんななかでも一人、そして二人と意見や質問をするなかで突破口を広げ、そこから先はさすがの秋高生、自分自身、そして自分たち自身で面白さを見出し、共有し、終始活発なディスカッションが進められました。尚、本日のセッションを担当した講師(ファシリテーター)は、実際に大学レベルや企業での指導経験豊富であり、秋高生の関心のあるポイントや個々の意見の細部からさらに拡大して全体へなげかけるなど、彼女の誘導とアドバイスのおかげで、時間とともに教室内の熱量もあがっていきました。渡航前の事前研修として実施した3月のプログラム(日本国内に留学中の学生とのディスカッションベース・プログラム)と同様に、あるいはそれ以上に頭をフル回転して取り組んだのでしょうか、終了後は明らかに疲れ切った様子に…。しかし、私には笑顔と達成感でとてもよい表情に感じました。

ハーバード大学のある駅周辺(通称「ハーバードスクエア」)にて、学生リーダーと昼食を楽しんだのち、午後のプログラムがスタートしました。ハーバード大学で学ぶ現役学生との懇談、そしてガイドツアーです。日本人学生(学部3年)を含む3名の学部生から、リベラルアーツ教育の意義や特徴とともに同大学の教育システムについての説明、個々の専攻・専門分野から同大学を選んだ理由、高校生である生徒へのアドバイス(質問にこたえるかたちで)など、幸運にもハーバード大学内、実際の教室を使わせていただき、丁寧に対応をいただきました。当然今回も終始英語による説明でしたが、多くの生徒からも質問(英語で)の挙手が続き、短時間ながら貴重な経験、有意義な時間となったことは間違いありません。尚、後で日本人学生についてのオンライン記事(講談社)を拝読したところ、中学時代からの準備、そして高

校時代の活動（海外大学進学を念頭に置いて）など強い意志と実行力、そして継続の結果であることあらためて感じるとともに、何よりはネイティブと全く遜色ない彼の英会話力は独学で得たものである（インターナショナルスクールはもちろん、留学経験もないとのこと／ ※高校は公立）こと知り、さらに驚きました。中高時、ハーバード大学は彼にとっての目標であり、そして今は通過点として将来は政治（政策）への関心と知識を深めるべく学びを進めるとのこと。公立高校出身、周囲に恵まれた環境や機会が多少あったのかもしれませんが、秋高生と大きくは変わらない彼のバックグラウンドと高校生活、本研修で多くの刺激や気づきを持ち帰るであろう北雄の翼参加生徒たちにこそ、大きな可能性を感じた時間でした。その後、1時間ほど彼らとのキャンパスツアー（3グループに分かれて）を楽しみ、大学 COOP（いわゆる学生生協）にてしっかりと資金提供をしたのちに、本日のプログラムを終了しました。

以上、現地5日目の報告とさせていただきます。





